

午後 試験

問 1

問 1 では、インターネットを利用した書籍販売システムを例にとり、オブジェクト指向分析について出題した。全体として、題意はおおむね理解されていたようであった。

設問 2 (2) の理由は、正答率が高く、題意が理解されていたようだが、“システムと実際の在庫数が不整合になるから”のような、受注可能在庫数を算出する目的を正しく理解していない解答も見受けられた。

設問 3 は、正答率が低かった。在庫数と引当済数及び注文冊数を用いた在庫管理の方法を、問題文から理解してほしかった。また、“在庫情報を更新する必要がある。その更新内容を図 1 の属性名を用いて”という問題文の指示にもかかわらず、“発送完了フラグを更新する”のような、在庫情報に関連のない解答や、図 1 の属性名を用いない解答が散見された。

設問 4 (2) は、正答率が高く、題意が理解されていたようだが、“図 1 の凡例に倣って”という問題文の指示にもかかわらず、不適切な表記を用いた解答が散見された。

情報システム開発において、オブジェクト指向の技法が用いられることは多くなっている。アプリケーションエンジニアには、オブジェクト指向分析に関する能力が必要なことを理解しておいてほしい。

問 2

問 2 では、家電量販店の販売システムを例にとり、業務システムの移行設計について出題した。全体として、題意はおおむね理解されていたようであった。

設問 2 の理由は、正答率が低かった。即時に同期させなければならない理由を問うているにもかかわらず、“在庫数を確認する必要があるから”、“在庫数が即時に更新されるから”のような、在庫数が正しくならない理由を理解できていない解答が散見された。

設問 4 も、正答率が低かった。店舗から補充発注を行うことを禁止している理由を問うているにもかかわらず、“配送指示データが正しく作成されない”のような、補充発注と配送指示入力を混同している解答が多かった。

業務システムの移行時に、現システム、新システムの並行稼働を行うケースはよく見受けられる。アプリケーションエンジニアには、並行稼働処理における業務運用設計、システム機能設計に関する能力が必要なことを理解しておいてほしい。

問 3

問 3 では、銀行の顧客管理支援システムを例にとり、日中の業務処理及び業務終了後のバッチ処理を含めたシステム全体の処理設計について出題した。全体として、題意はおおむね理解されていたようであった。

設問 1 のクラス図及び設問 2、設問 5 のテーブル設計に関連する設問は、正答率が高かったが、処理設計を問う設問 4 は、正答率が低かった。

設問 4 (1) は処理内容を把握して処理フローを設計する設問であった。目的のテーブルを作成するためには、最初にデータを取り込む処理が必要であるが、この部分を誤った解答が多かった。バッチ処理の基本的な処理フローを十分に理解・把握してほしい。

設問 3 及び設問 4 (2) は、ともに重点区分に関する設問であったが、処理が特定されている設問 3 は正答率が高く、処理が特定されていない設問 4 (2) は正答率が低かった。基本的な処理フロー設計が把握できれば正解を導き出せることがうかがえた。

バッチ処理の処理フロー設計は、システム構築においては広範囲であり、極めて重要である。アプリケーションエンジニアには、バッチ処理を含めたシステム全体に対する総合的な設計能力が必要なことを理解しておいてほしい。

問 4

問 4 では、製造販売会社の販売管理システムを例にとり、業務見直しに伴うシステムの変更について出題した。全体として、題意はおおむね理解されていたようであった。

設問 2 は、出荷・売上サブシステムの中で、変更となる処理とその内容、追加される処理とその内容を問うているにもかかわらず、出荷・売上サブシステム以外の処理を変更・追加の対象とした解答が散見された。業務変更がどのサブシステムにどのような影響を与えるか、問題文からしっかり読み取ってほしかった。

設問 3 及び設問 4 は、請求方式の変更に伴う、請求書及び請求処理に必要なマスタに関する出題であった。正答率は高く、請求方式の変更に伴う、システムの変更について正しく理解できていたことがうかがえた。

業務要件の変更によるシステム変更は、日常よく見受けられることであり、アプリケーションエンジニアには、業務の変更内容をシステム設計に反映していく能力が必要なことを理解しておいてほしい。